

Business Report

第31期 | 株主通信

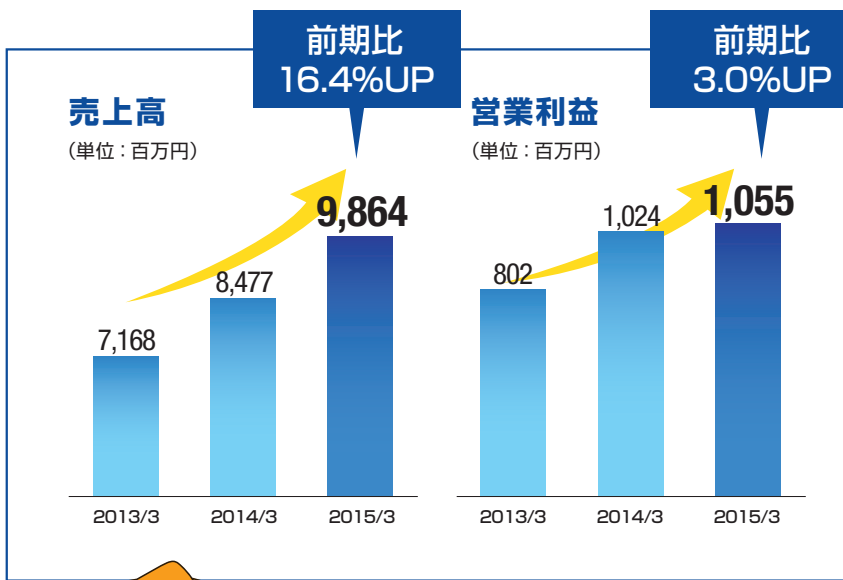
2014年4月1日▶2015年3月31日

コムチュア株式会社
COMTURE CORPORATION

証券コード 3844



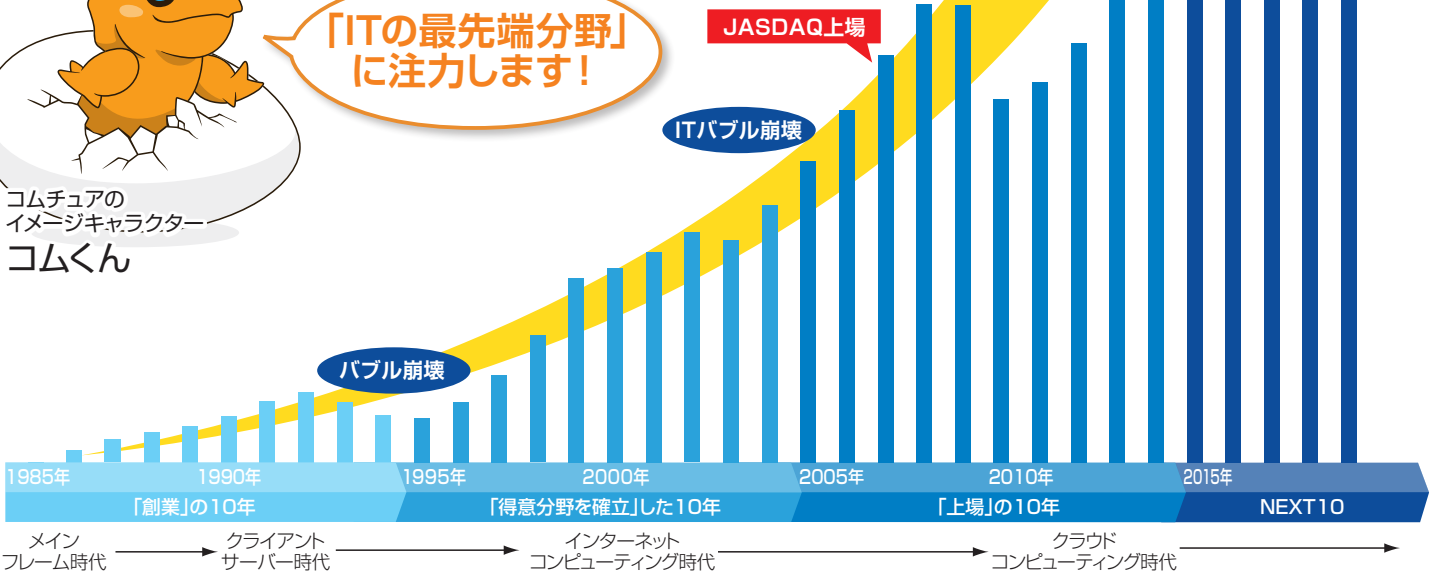
2015年3月期 売上高・営業利益ともに 過去最高を更新!



「NEXT10」
7つの戦略で
1,000億円企業を
目指す!!



「ITの最先端分野」
に注力します!





代表取締役会長
CEO
向 浩一

代表取締役社長
COO
大野 健

「ITの最先端分野」での取り組み

—ビッグデータ・セキュリティ・IoT (Internet of Things)・マイナンバー—

2015年3月期業績

当社グループはクラウド&モバイルビジネスを中心に4つの分野(グループウェアソリューション事業、ERPソリューション事業、Webソリューション事業およびネットワークサービス事業)での事業を推進し、高付加価値化の追求、生産性の向上と高品質への取組みを継続的に行ってまいりました。

以上の結果、2015年3月期では、売上高が98.6億円(前期比16.4%増)、営業利益は10.5億円(同3.0%増)となりました。

主にクラウド事業の拡大、大規模ITインフラ構築案件の受注増および金融分野での受注拡大などにより、当社のビジネスは堅調に推移し、売上高は5期連続の増加となりました。利益面では、不採算案件の影響があったものの、継続的な高付加価値化戦略による一人当たり売上高の増大、販管費の改善などにより、当期純利益は4期連続で増加し、過去最高益となりました。

NEXT10「ITの最先端分野」での取り組み

— 絶え間ないイノベーション

創業以来30年間、コムチュアの成長の軌跡は「絶え間ないイノベーション」の連続でした。世の中の経済変動の節目において、新しい技術にチャレンジし、お客様の「ささやきをカタチに」することによって、ビジネス拡大につなげ、成長してきました。

中でもクラウド&モバイルについては、その市場の成長性にいち早く注目し、取り組むことで今や売上高の2割を占めるまでに成長しました。

今後は、ビッグデータ、セキュリティや、モノとモノがインターネットでつながるIoT (Internet of Things)、およびオープンソースソフトウェアなどの新たなITの潮流やマイナンバーなどの新しいビジネス分野にも取り組み、事業強化を図っていきます。

— ビッグデータ

ビッグデータについては、メガバンク向け犯罪取引検知システム構築などを通して既に取り組みを開始しています。

今後、統計解析技術者の育成・補強などを通して飛躍的な成長を目指します。

— セキュリティ

セキュリティは従来から対応してきた領域です。今後はさらに、クラウド環境でのデータ保護やモバイル機器を含むセキュリティ対策についての重要性の高まりを受け、データの暗号化、アクセスログ管理、統合認証基盤などの分野を含め、ビジネスの拡大を図ってまいります。

— IoT

IoTとは世の中に存在する様々なモノに通信機能を持たせ、インターネットに接続したり相互に通信することにより、自動認識や自動制御、遠隔計測などを行うことです。2019年には16兆円規模の市場になるとも言われています (IDC Japan調べ)。ソフトウェアを使った具体的な案件も出始めており、今後積極的に取り組んでいきます。

— オープンソースソフトウェア

クラウド・モバイルの普及により、今後さらに導入が進むと予測されるオープンソースソフトウェアの分野で他社との協業を含め、積極的に展開していきます。

これら最先端の技術は付加価値が高いビジネスです。これはコムチュアが注力してきた高付加価値化戦略と合致します。先端技術への取り組みを通して、社員の技術力をより高め、一人当たり付加価値の向上につなげていきます。

— マイナンバー

また足元ではマイナンバー制度の導入が始まります(2015年10月通知、2016年1月実運用開始予定)。マイナンバー制度の導入に伴って企業にはその取扱いについてITを使った「安全管理措置」が求められ、情報管理、データベースのアクセス管理の強化といったニーズが今後ますます増加するものと思われます。既に複数の案件での受注もあり、この分野での需要拡大にも対応していきます。

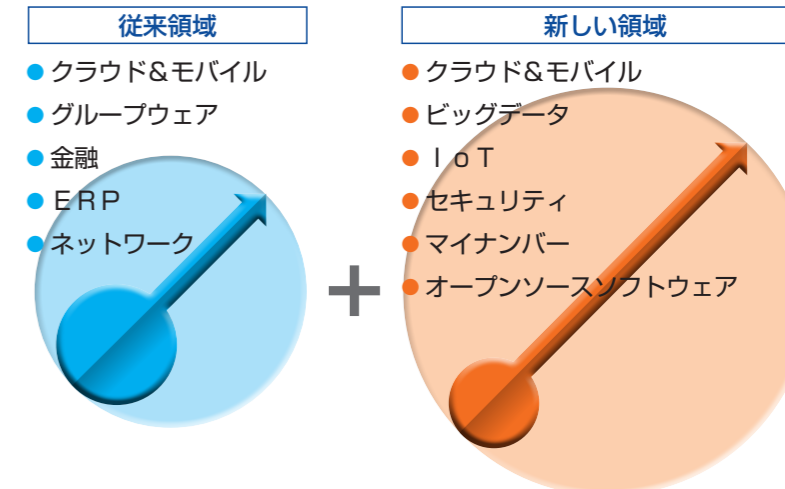
このように、既存事業の拡大のみならず、新しいIT技術、新たなビジネス分野に積極的に取り組むことで、イノベーションを実行していきます。

毎年20%成長を目指します。

コムチュアのNEXT10に向けた取り組みの柱となるのは、従来領域に加えて最先端分野に取り組もうとするイノベーションの力、方針としての7つの経営戦略、中期経営計画です。

最先端分野への取り組み

コムチュアは従来から、クラウド&モバイルをはじめとする新しい領域にチャレンジすることで成長を果たしてきました。従来領域の拡大はもちろん継続します。それに加え、これからはビッグデータ、IoT、セキュリティといった、ITの最先端領域にチャレンジし、飛躍的な成長を目指します。



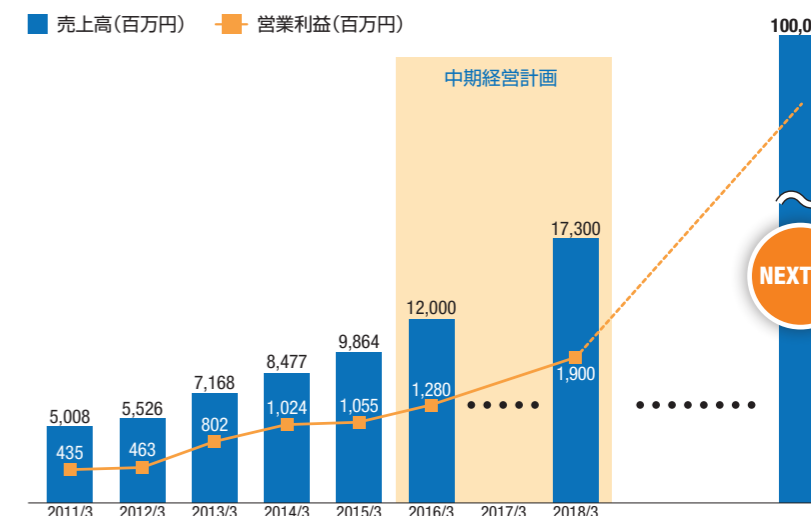
7つの経営戦略

コムチュアは、質・量ともに10倍の会社を目指す「NEXT10」達成のための基本的な方針として「7つの経営戦略」を掲げています。これら一つひとつの戦略について、社員一人ひとりが理解をし、日常の活動に落とし込むことが重要です。コムチュアでは毎週月曜日に、幹部社員が集まり、7つの経営戦略をテーマに議論を深めています。

1. 成長戦略	クラウド&モバイルに加え、新たなITの潮流への取組みを軸に、 成長エンジンの創出と高付加価値化
2. 顧客戦略	中期目標を牽引する重点ユーザを決め、新領域への取組み、 既存顧客の取引拡大と新規ユーザ層の開拓
3. 人材戦略	付加価値の源泉である 人材の育成と補強、トップダウン型経営と現場力を融合 させた組織運営と基盤強化
4. イノベーション戦略	新たな価値の創出 を目指し、クラウド&モバイルに加え、先進的IT新技術への積極的取組みと事業化の推進
5. 品質戦略	プロジェクト管理の精緻化、見積、工程と品質の可視化を進め、 サービス品質の向上を促進
6. 財務戦略	営業利益率、自己資本比率、ROE等を経営の中核指標に据え、 企業価値の向上と健全成長推進
7. 提携戦略	相乗効果を前提に、 事業基盤強化を狙った業務提携 の積極的な取組みで成長スピードを加速

中期経営計画

「NEXT10」初年度にあたる今期、2018年3月期を最終年度とする中期経営計画を策定しました。この3年間の年平均伸び率(CAGR)は21%と、引き続き20%成長を継続します。そのためにはクラウド&モバイルをはじめとする従来領域に加え、ビッグデータ、IoT、セキュリティといった、ITの最先端領域への取り組みを強化し、飛躍的な成長に繋げます。



新たな最先端技術の登場やマイナンバー特需など、ITに対する期待は、今後ますます高まっています。

コムチュアが取り組んできたクラウド&モバイルは既に我々の生活に溶け込み、「クラウド」という言葉が一般的に使われるまでになりました。これからのコムチュアは、従来領域を大切にしながらも、最先端技術に積極的に挑戦します。社員一人ひとりの付加価値を高め、毎年20%の成長を続けます。

NEXT 10

③ ITの最先端分野



② 成長分野



① 従来領域

- グループウェア ● 金融
- ERP ● ネットワーク

2011/3

2015/3

2016/3

2017/3

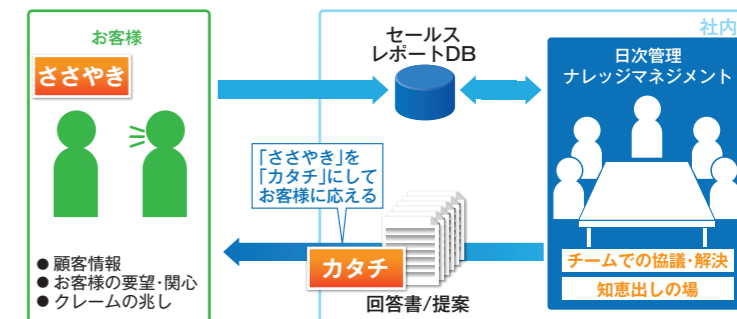
2018/3

2025/3

NEXT 10に向かって成長を続けます!

顧客戦略

コムチュアは、開発者自らがお客様からヒアリングを行い、社内に持ち帰ってチームでソリューションを生み出し、お客様にご提案する、提案型営業を実施しています。



提携戦略

コムチュアは2014年4月に(株)コスモネットを、2015年2月に日本ブレインズウェア(株)と(株)シー・イー・エムを連結子会社化しました。今後も、成長スピードを加速させるために、M&Aを含めた他社様との提携を、慎重かつ迅速に推し進めます。

コムチュアグループ 会社組織図



CASE STUDY 事例

CASE 1 クラウド 鎌ヶ谷市役所様向け「ゴミステーション」管理システム開発案件

近所のゴミ集積所を、クラウドで管理する時代に。コムチュアの技術が市民の皆様の生活を支えています。

現在、千葉県鎌ヶ谷市内の数千箇所に点在するゴミ集積所は、コムチュアが開発したクラウド技術により、市・清掃業者・焼却センターで一元管理されています。これまでは、三者三様にそれぞれが手作業で管理していたため、手間やコストがかかっていました。クラウドを使って一元管理することで、作業効率が大幅に改善するとともに、一つひとつの集積所の情報を的確に把握することができるため、市民の皆様の使いやすさの向上につながられます。

今回のコムチュアなヒト

今回のゴミステーション管理システムを通じて、多くの関係者が連携し、たくさんの拠点を管理する仕組みのノウハウを身につけることができました。また、セールスフォースだけでなく、他のクラウドサービスと連携させるノウハウも獲得しました。今後、他の業種も含め、横展開を目指します。



クラウドソリューション本部 新沼 匠

CASE 2 ビッグデータ 某国内メガバンク向け 犯罪口座検知システム開発案件

ビッグデータを基に、犯罪取引の早期検知に貢献しています。

資金洗浄・密売・テロ資金提供などの、犯罪取引および疑わしい取引を早期検知するために、金融機関の多くは今、ビッグデータに着目しています。コムチュアは、ビッグデータを基に、疑わしい取引パターンの仮説立てをすることで、今まさに起ころうとしている犯罪取引の早期検知・報告が可能となるマネーロンダリング対策ソリューションを提供しています。こうしたビッグデータに関連する案件は、今後あらゆる業種において、非常に高まっていくと予測されています。

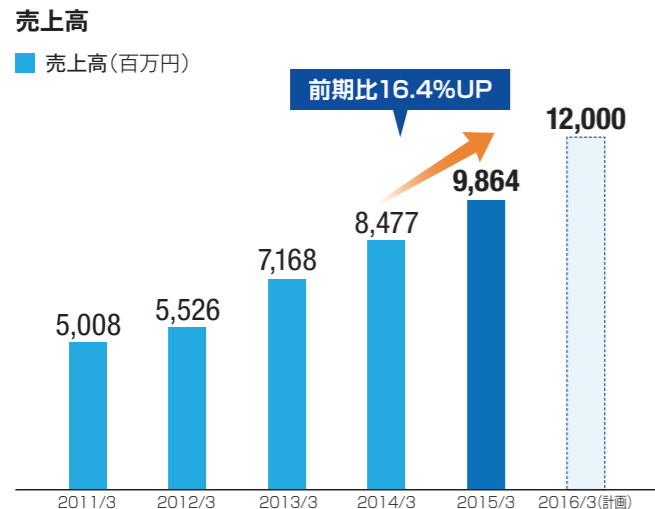
今回のコムチュアなヒト

ビッグデータ関連は、国内の技術者・有識者がまだまだ不足していると言われています。私の部署でも当初はメンバー集めや育成に、多くの時間と労力を費やしました。今できる事にとどまらず、さらに上流のノウハウを身につけ、社内にビッグデータ分析の専門部署を作っていきます。

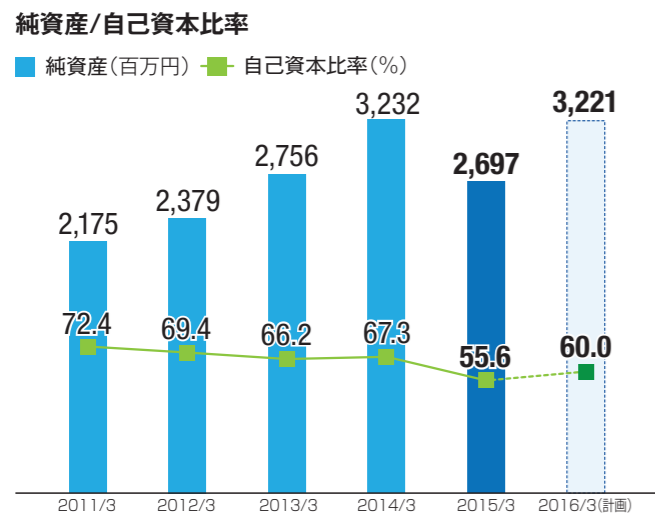


金融ソリューション本部 佐藤 育代

前期比16.4%増の大幅成長



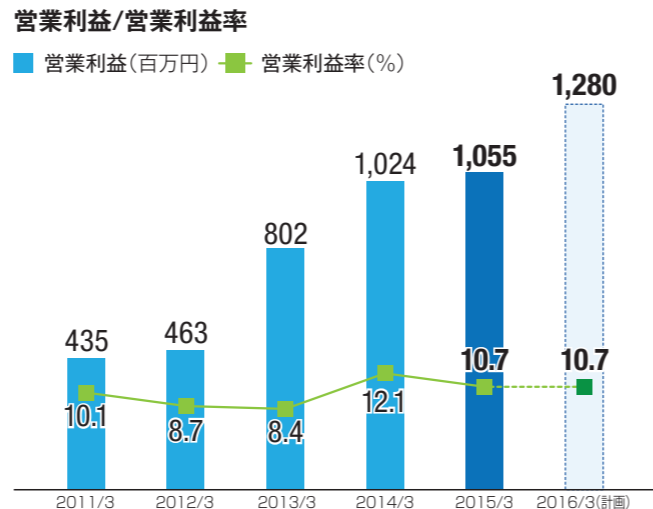
自己資本比率の高い健全な財務体質



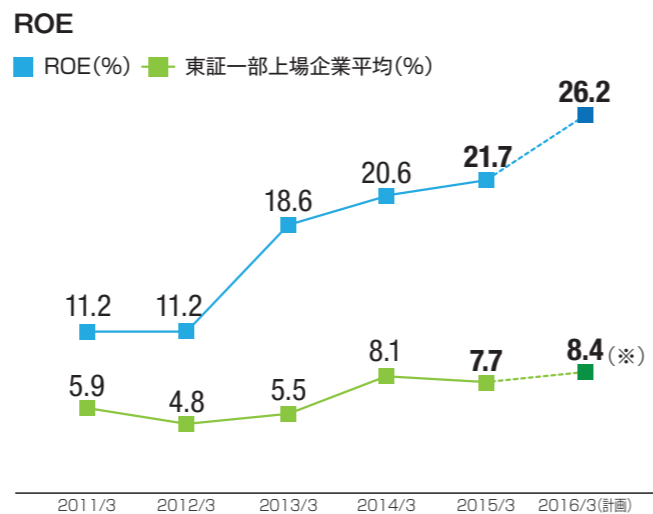
主要連結財務データ

科目	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3	2015/3	2016/3(計画)
経営成績(百万円)						
売上高	5,008	5,526	7,168	8,477	9,864	12,000
営業利益	435	463	802	1,024	1,055	1,280
経常利益	463	489	811	1,043	1,059	1,280
当期純利益	232	254	475	615	641	776
財政状況(百万円)						
総資産	3,002	3,420	4,147	4,800	4,844	5,368
純資産	2,175	2,379	2,756	3,232	2,697	3,221
キャッシュ・フロー(百万円)						
営業活動によるキャッシュ・フロー	360	276	756	656	727	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	△205	△367	67	△1	34	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	△48	△52	△123	△143	△1,243	-
現金及び現金同等物の期末残高	1,235	1,141	1,843	2,354	1,873	-
1株当たりデータ(円)						
当期純利益	44.21	48.40	90.63	116.26	121.07	160.20
純資産	414.08	452.10	523.19	605.73	556.29	665.00
配当金	10.0	12.3	26.0	42.0	48.0	56.0
主要経営指標(%)						
総資産利益率(ROA)	8.1	7.9	12.6	13.8	13.3	15.2
自己資本利益率(ROE)	11.2	11.2	18.6	20.6	21.7	26.2
自己資本比率	72.4	69.4	66.2	67.3	55.6	60.0
配当性向	22.6	25.5	28.7	36.1	39.6	35.0

営業利益率10%以上の高収益企業



ROEは20%を超える高収益を維持



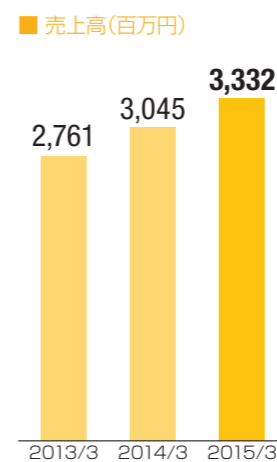
※出所 みずほ証券リサーチ&コンサルティング

事業別概況

グループウェアソリューション事業

概況

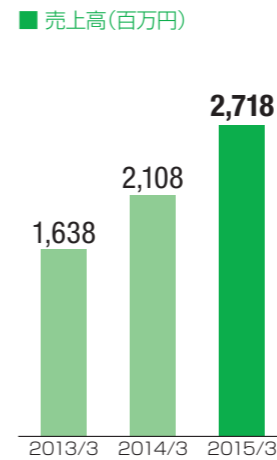
国立がん研究センター様向けの情報共有システム開発およびHP刷新、クリナップ様向けデータベースのセキュリティシステム導入、メガバンク向け海外展開支援などにより売上高は前期比9.4%増の3,332百万円となりました。



Webソリューション事業

概況

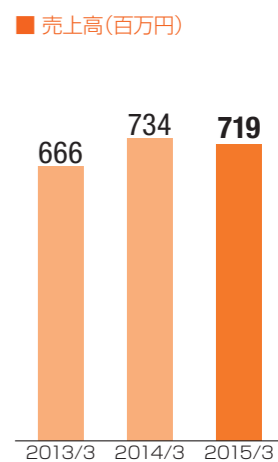
鎌ヶ谷市役所様向けゴミステーション管理システムなどセールスフォースを活用したクラウド展開、ビッグデータを活用したメガバンク向け犯罪口座検知システム開発をはじめとした金融業界向けの案件の大幅拡大により売上高は前期比28.9%増の2,718百万円となりました。



ERPソリューション事業

概況

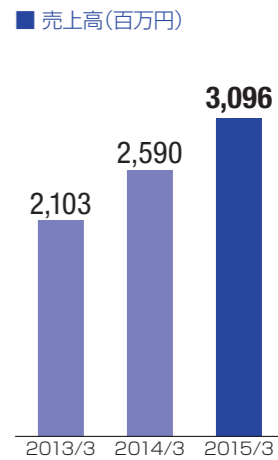
大手化学会社向けSAP既存システム再構築、食品会社の合併によるシステム統合、大手医療機関向け会計システム導入などにより売上高は増加しましたが、一部要員の他分野シフトなどにより、前期比2.2%減の719百万円となりました。



ネットワークサービス事業

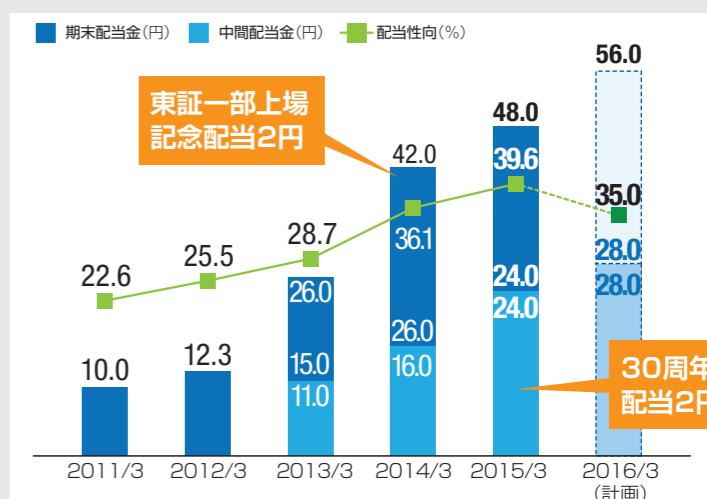
概況

大手金融機関向けの大規模ITインフラ構築・システム運用案件が大きく売上高に寄与し、前期比19.5%増の3,096百万円となりました。この案件は、今後運用フェーズに入り、継続的に売上に寄与します。



配当性向35%以上を継続し、普通配当10円増配

- 利益配分については、内部留保の充実と配当性向等とのバランスを図りながら、株主の皆様に対し、積極的に利益還元を行なうことを基本方針としております。過去3年の実績をふまえ、今後とも配当性向35%以上を目標としてまいります。
- 2015年3月期は当初計画の46円に対し、期末配当金を2円増配し、年間配当を48円とさせていただきます。その結果、配当性向は39.6%となりました。
- 2016年3月期は、中間配当28円、期末配当28円、計56円を計画しております。これは前期に対し8円(普通配当は10円)の増配で、配当性向は35%となります。



第32期も個人投資家向けIR活動を積極的に実施中。

株主の皆様も是非ご参加ください。

野村 IR 個人投資家フェア 2014 の様子



第32期のIRカレンダー (予定)

2015年	
4月18日	個人投資家向けIR説明会 (那覇・ラジオNIKKEI)
5月11日	決算発表
5月23日	個人投資家向けIR説明会 (東京・大和IR)
5月26日	ラジオNIKKEI ザ・マネー出演
5月30日	IRカンファレンス (東京・プリズムホール)
6月2日	アナリスト・機関投資家向け決算説明会
6月7日	個人投資家向けIR説明会 (大阪・大和IR)
6月17日	定時株主総会
6月27日	ラジオNIKKEI個人投資家向け説明会 (札幌)

7月	第1四半期決算発表
8月28日~29日	日経IR・投資フェア2015 (東京ビッグサイト)
9月13日	個人投資家向けIR説明会 (名古屋・大和IR)
10月	第2四半期決算発表
11月	ラジオNIKKEI ザ・マネー出演
11月28日	個人投資家向けIR説明会 (東京・大和IR)
12月11日~12日	資産運用フェア2015 (東京・ベルサール渋谷ガーデン)
2016年	
1月	第3四半期決算発表
2月13日	個人投資家向けIR説明会 (福岡・大和IR)

会社データ (2015年3月31日現在)

会社概要

商号	コムチュア株式会社 英文会社名:COMTURE CORPORATION
本社所在地	東京都品川区大崎一丁目11番2号
WEBサイト	http://www.comture.com/
設立年月日	1985年1月
資本金	10億1,680万円
従業員数	837名
営業所	大阪営業所

取締役および監査役 (2015年6月17日現在)

代表取締役会長CEO	向 浩一
代表取締役社長COO	大野 健
常務取締役	澤田 千尋
取締役	細川 琢夫
取締役	佐々木 仁
監査役	田村 誠二
監査役	中元 秀明
監査役	和中 新一

株価チャート



大株主の状況

株主名	所有株式数(株)	所有比率(%)
有限会社コム	1,090,000	20.39
コムチュア社員持株会	277,900	5.20
BNP パリバ証券	202,000	3.78
日本証券金融株式会社	173,200	3.24
株式会社三菱東京UFJ銀行	150,000	2.80
向 浩一	128,000	2.39
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	114,800	2.14
大野 健	93,000	1.74
奥平 健一	53,300	0.99
日本マスタートラスト信託 銀行株式会社(信託口)	53,100	0.99

(注) 1. 当社は自己株式500,081株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。
2. 所有比率は自己株式を含んで計算しております。

株式の状況

発行可能株式総数	17,400,000株
発行済株式総数	5,343,900株
株主数	3,140名

株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
配当金受領株主確定日	3月31日および中間配当を行うときは9月30日
株主名簿管理人 特別口座の 口座管理機関 (同連絡先)	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL (0120) 232-711 (通話無料)
公告方法	電子公告により、当社WEBサイトに公告いたします。但し、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は日本経済新聞に公告します。

ご注意

1. 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。
2. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。